

多自然川づくり取組事例

タ イ ト ル : 令和5年7月梅雨前線豪雨後の巨瀬川における河道掘削		
水 系 / 河 川 名 : 筑後川水系巨瀬川		河 川 分 類 : 中小河川
河川の流域面積 : 84.7	整 備 計 画 流 量 : 290m ³ /s	セグメント : 2-1
事 業 : 災害復旧		事業開始年度 : 令和5年度
目 標 設 定 : 定性的		段 階 : D(実施・施工時)
課題・目的(主な): 流下能力の確保、礫河原、砂州・中州の保全・再生・創出、瀬・淵の保全・再生・創出		
工 法 (主 な) : 掘削(高水敷)、掘削(低水路)		
配慮事項(主な): 施工管理、人材育成		

背景・課題、目標設定

<背景>

令和5年7月の梅雨前線豪雨により、巨瀬川国管理区間において全川にわたり計画高水位を超過し、多くの区間で越水し、甚大な被害が発生した。今後の再度災害防止を図るため、出水時の水位低減を目的に、推進費を充当し緊急的に河道掘削を実施することとなった。

<課題>

河道内の環境の改変を伴う河道掘削において、今ある環境の保全、新たな環境の創出等、施工時の工夫が求められた。

一方で、緊急的な事業のため、環境も含めきちんと検討した設計・図面等はなく、時間(工期)も短い、など様々な制約があり、施工業者も環境について前向きに取り組める状況ではなかった。

<目標>

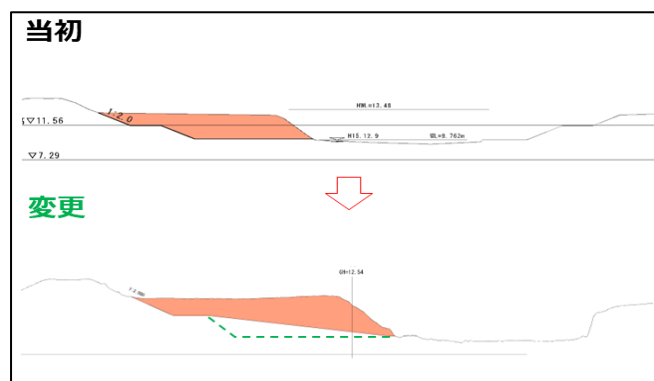
- ・今ある巨瀬川の環境を保全すること
- ・今後の出水等の影響で巨瀬川が
なりたい川の姿になれるような空間を確保すること
- ・施工業者が主体的に携わること



巨瀬川流域の浸水状況

取組内容・対策例(1/2)

- ・なるべく手間をかけずにできる工夫を検討
(ICT施工も可能な断面の設定、現地発生材の活用等)
- ・施工業者のモチベーションを高めるための関わり合い



河道掘削形状の変更イメージ



現場で検討した工夫例

取組内容・対策例(2/2)

＜整備効果＞

- ・一様な断面ではなく、多様な環境を創出することができた。
小規模出水により水際が攪乱され、新たな環境が創出されたところもある。
⇒巨瀬川が自然になりたい川の姿になれる土台づくりができた。

- ・施工業者の環境への意識が向上した。(※発表者の主観)



河道掘削後の水際の攪乱状況

モニタリング結果、アピールポイント、今後の対応方針

＜アピールポイント＞

- ・しっかりした設計がなく工期も短い中で、施工業者と現場で行った、できる限りの工夫
- ・施工業者が環境への取り組みを積極的に考え提案してもらえるような意識の向上



工夫を取り入れた現場の施工直後と現在

＜今後＞

・例えば環境整備事業のような事業だけではなく、通常の築堤工事等、継続的に行われている工事においても、(仮に設計がなくても)現場で自分たちなりにできる工夫を少しでも入れることができれば、点ではなく縦断的に良い河川環境の創出が期待される。今後はそういった動きになるよう、今回の経験を活かし、施工業者の経験を増やしたり、意識向上につなげるため、出張所のような現場だからこそできることは何か考えながら取り組んでいく。

備考